

# 近年‘紅まどんな’で問題となっている病害

‘紅まどんな’では、これまでも温州萎縮病、樹脂病、疫病などが発生し問題となっていたが、最近ではそうか病や炭疽病等の新たな病害の発生も認められるので注意が必要である。



そうか病

1. 越冬病斑から新葉、幼果に感染する。(温州みかんと同じ)
2. 新梢長1cmの時期にデランフロアブル等を散布、幼果期にも灰色かび病などと同時防除



越冬病斑



幼果発病



炭疽病

1. 枯枝や摘果枝から病原菌(糸状菌)が降雨とともに流出し、果実に感染する(着色開始期から症状が認められる)。  
9月から降雨が続く場合発生が増加傾向にある。
2. 枯枝や果実上部に近接する摘果枝をこまめに除去する。ジマンダイセン水和剤等の定期防除の確実な実施が重要。



その他の症状